

インフォメーション・コーナー

会 告

平成 20 年度会員名簿の掲載事項について (再)	70
平成 21 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)	71
平成 19 年度「研究グループ」助成について	71
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	71
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	71
「農業農村工学会学術基金」の募金について	72
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	72
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ	73
「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	73
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 21 年夏期の表紙写真の募集 (再)	75
支部講演会の投稿票について	75
第 57 回北海道支部研究発表会の開催について (再) ㊦	75
第 35 回北海道支部研修会または第 31 回シンポジウムの開催について (第 1 報) ㊦	76
第 37 回中国四国支部研修会・第 32 回地方講習会の開催について (第 3 報) ㊦	76
農地保全研究部会第 29 回研究集会の開催について (第 3 報) ㊦	77
平成 20 年度農村道路研究集会・現地研修会開催について (第 2 報) ㊦	78
平成 20 年度農業農村整備計画セミナー開催について ㊦	79
学会記事	80

第 76 巻第 10 号予定

展望: 北海道イニシアティブで水田経営モデルの実現を: 高嶺 彰

小特集: 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化

「量から食味へ」北海道の米と南幌町農業: 野中公文ほか

生産性向上に向けた泥炭土壌の水田整備: 河端 明ほか

農業生産の組織化と今後の展開: 菊地 誠ほか

水田整備と事業実施を契機とした経営体育成: 石島光男ほか

北海道の水田整備の歴史と役割: 森 友秀

技術リポート

北海道支部: 千歳川地域における農業水利施設の機能診断調査について: 藤田 修

東北支部: 亀裂性岩盤部における水路トンネルの設計・施工事例について: 菅家雄太郎ほか

関東支部: 冬季用水の通水を確保する水路トンネル補修: 宮内静夫ほか

京都支部: 県営かんがい排水事業宇留生地区における地下空洞調査事例: 奥村東三ほか

中国四国支部: アンカー付き石積工法を使用した水路護岸の改修: 細川信佳ほか

九州支部: 塩水侵入阻止型地下ダムにおける取水塩分濃度の解析: 井手原克澄

小講座: 農業法人: 森 寛敬

私のビジョン: これからの農業農村に貢献できる技術者を考える: 藤原篤志

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

⊗のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成20年10月21,22日	関東支部	第59回講演会	⊗	長野市	76巻6,8号
平成20年10月21,22日	中国四国支部	第63回講演会	⊗	広島市	76巻5,7号
平成20年10月22日	北海道支部	第57回研究発表会	⊗	札幌市	76巻8,9号
平成20年10月23,24日	農地保全研究部会	第29回研究集会	⊗	中山間地における農地保全・地域資源の活用 松阪市	76巻6,8,9号
平成20年10月30,31日	九州支部	第89回講演会・シンポジウム 第31回講習会・現地見学会	⊗	那覇市	76巻5,8号
平成20年11月6,7日	京都支部	第65回研究発表会	⊗	福井市	76巻5,6号
平成20年11月6,7日	農村計画研究部会	第30回現地研修集会	⊗	都市・農村交流をめざした山,里,海づくり 横浜市	76巻7号
平成20年11月6,7日	農村道路研究部会	平成20年度研究集会・現地研修会	⊗	中国四国農政局管内	76巻7,9号
平成20年11月13,14日	中国四国支部	第37回研修会・第32回地方講習会	⊗	岡山市	76巻6,8,9号
平成20年11月19日	北海道支部	第35回研修会 / 第31回シンポジウム	⊗	札幌市	76巻9号
平成20年11月27日	東北支部	第42回研修会・第32回地方講習会	⊗	秋田市	76巻8号
*平成20年12月11日~13日のうち一日	資源循環研究部会	平成20年度研究発表会	⊗	農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環に係る調査・研究の最新成果 東京都	76巻3号
平成21年2月3日	北海道支部	地方講習会	⊗	札幌市	

*開催日が9月から12月に変更になりました。

平成20年度会員名簿の掲載事項について(再)

平成20年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがある場合は、会員番号と氏名を明記のうえ、郵便、E-mail または FAX で、10月3日(金)までにご連絡下さい。(非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です)

なお、ご連絡がない場合は、掲載に同意されない事項がないものとします。

記

会員名簿掲載事項

【氏名】 【会員番号】 【出身校】 【卒年】
【資格】 【勤務先及び役職】 【自宅住所】
【自宅電話番号】

連絡先

郵便の場合：〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4

農業農村工学会 花塚宛

E-mail の場合：hanatsuka@jsidre.or.jp

ファックスの場合：03 3435 8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
2. データ内容の正確性の確保
個人情報の正確性、最新性を確保する
3. 安全管理措置、従業者、委託先の監督
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
4. 第三者提供の制限
名簿は、(社)農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

平成 21 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 21 年度の農業農村工学会賞（上野賞，沢田賞を除く）を，第 76 巻 6 号 p.70 の募集要項[※]に則って，推薦書によりご推薦下さい。

締切りは，平成 20 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

注）第 76 巻 6 号 p.70 掲載の募集要項に誤りがありました。平成 21 年度の優秀技術リポート賞の対象範囲および期間は，農業農村工学会誌 75 巻 1 月号～76 巻 9 月号ではなく，73 巻 4 月号～76 巻 9 月号です。お詫びして訂正いたします。

平成 19 年度「研究グループ」助成について

申請のあった「研究グループ」助成について，研究委員会において審査の結果，下記グループが認定されました。

記

代表者 吉永 育生（独）農研機構九州沖縄農業研究センター）
他 3 名

テーマ 亜熱帯地域のため池におけるアオコの発生条件

代表者 中野 恵子（独）農研機構九州沖縄農業研究センター）
他 3 名

テーマ 「土作り」による温暖化障害回避効果の解明

代表者 鈴木 哲也（日本大学生物資源科学部）他 3 名

テーマ 非破壊 AE 計測による農業用パイプラインの危険度評価技術の開発

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント，また，通信教育で最大年間 18 CPD ポイント取得できますので，是非，通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で，かつ CPD 機構会員の方は，農業農村工学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）にある参加申込書に必要事項を記載してメール（E-mail：cpd@cpd.jsidre.or.jp）あるいは FAX（03 5777 2099）でお送り下さい。

なお，この機会に農業農村工学会，継続教育機構への入会を希望される方は，同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>，<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込様式がありますので，ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は，いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。（☎03 5777 2098）

4. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から，機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で，毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し，回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果，7 割以上正解で 1 CPD ポイント，満点で 1.5 CPD ポイントが取得でき，機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り，自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため，学会が必要経費を負担しますので，当分の間，通信教育参加費は無料です。

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では，近年における地震，豪雨等による災害が各地に発生し，農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み，それら災害の原因究明，復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として，災害対応特別委員会を設

置しています。

この災害対応特別委員会では，「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」，「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して，災害発生後，直ちに災害

対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年9月にVol.6, No.3が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む)8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先：農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>の「5. APPLICATION FORM FOR

THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年9月に Vol 6, No 3 が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review、Article、Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment
Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building #205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703,
Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565
6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will
be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)
Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering,
National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of
China

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載してあります。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 76, 77 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 上 り 4 ページ厳守)
76 巻 10 号 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化(仮)	公募なし	
11 号 地球温暖化対策と農業農村工学技術(仮)	公募終了	
12 号 限界集落の現状と課題(仮)	公募終了	
77 巻 1 号 創立 80 周年を迎えるにあたって(仮)	公募なし	
2 号 農業農村整備技術の継承と技術者育成(仮)	平成 20 年 9 月 12 日	平成 20 年 10 月 31 日
3 号 農業農村整備事業の効果・効用(仮)	平成 20 年 10 月 15 日	平成 20 年 11 月 28 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷上り 2 ページ(4,000 字程度)で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷上り 1 ページ以内(1,200 字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

77 巻 2 号テーマ「農業農村整備技術の継承と技術者の育成」(仮)

農業農村整備技術は、江戸時代の先達たちの経験を基礎として、明治以降発展する社会経済の要請を受けながら多様化・高度化し、農業基本法および土地改良法の成立以降、わが国の社会資本整備の中核を担うまでに貢献してきました。しかし、時代の推移とともに農業農村工学分野が輩出した多くの人材のうち、基幹水利施設の計画立案段階や建設ピーク時に活躍したベテラン技術者が花道にさしかかり、また干拓事業や農地開発事業をはじめとする食料増産時代の技術を知る者も少数派になりつつあります。

現代はといえばバブル期以降の社会経済情勢を背景として、技術の焦点は過去に投資してきた社会資本をいかに効率的に未永く維持・更新していくかに移った感があります。しかしながら、これからの食料危機や地球温暖化などの問題を考えれば、計画当初の設計技術(新たにものを造るための技術)を風化させないと同時に、新たな社会要請にも応えうる技術者を世に送ることが、いかに重要であるかは論を待たないところです。

このためには、農業や水と土から、生物、地球に至る環境に対する課題を学んできた若い技術者に、しっかりした考え方と活躍の場を提供していくことが、農業農村工学会の重要な責務ではないかと考えます。

そこで、農業農村工学分野において行われている継続的教育の現状を知り、そこから現時点に即応した新しい形の技術者を育成していく際の問題点を抽出することがまず重要であると考えられます。

さらに、農業農村工学に関わる産学官いろいろな分野の若手技術者から、どのような専門で活躍する技術者像をめざしているのか、あるいは将来やってみよう専門技術はどのようなものか、積極的な意見を集め真摯に耳を傾けることが、若手を育てる良いヒントに繋がるものと考えます。

上記を踏まえ、技術者育成のあり方と具体的方法について論議を深めるきっかけとするため、広く報文を募集していきたいと考えます。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 21 年夏季の表紙写真の募集（再）

学会誌編集委員会では、平成 21 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にわけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「夏」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」（昨年と同様）

2. 対象巻号

学会誌第 77 巻（平成 21 年 1～12 月号）のうち、特に夏季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 平成 20 年 9 月 30 日（夏季の写真）

6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各

支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第 57 回北海道支部研究発表会の開催について（再）

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成 20 年 10 月 22 日（水）

2. 会 場 札幌市・北海道大学学術交流会館 2 階講堂
 （札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ）

3. 研究発表申込み

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望（口頭またはポスター）を E-mail、FAX または郵送にてお申し込み下さい。

発表申込みの締切は平成 20 年 9 月 24 日（水）です。

発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は平成 20 年 10 月 3 日（金）です。

4. 参加申込み

下記様式により、E-mail、FAX または郵送にてお申し込み下さい。

参加申込み締切は平成 20 年 10 月 17 日（金）です。

所属機関 _____

同上所在地 _____

申込代表者 _____

TEL _____

氏 名	所 属	備 考

5. 発表・参加申込先

〒060 8589 北海道大学大学院農学研究院内
 農業農村工学会北海道支部事務局
 担当：柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

☎011 706 3641 FAX 011 706 2494
6. 参加費用
 2,000円(当日会場にて申し受けます。)

第35回北海道支部研修会または第31回シンポジウムの開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期日 平成20年11月19日(水)
2. 会場 札幌市・北海道大学学术交流会館
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)
3. テーマ
「気候変動に対応した農業用水の維持管理」(仮題)
講演題目、講演者、プログラム等については、続報にてお知らせします。

4. 問合せ先
〒060 8589 北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011 706 3641 FAX 011 706 2494

第37回中国四国支部研修会・第32回地方講習会の開催について(第3報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部第37回支部研修会・第32回地方講習会を11月13日(木)、14日(金)の2日間にわたり、開催します。本研修会・講習会の開催要領・参加申し込みについては、下記のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 課題

- (1) 支部研修会：『「くだもの王国おかやま」と畑地かんがい施設』
- (2) 地方講習会：『設計基準 - 頭首工の解説 - 』
『計画基準の最近の動向』
『管理基準について』

2. 日時

- (1) 支部研修会：平成20年11月13日(木)
10:30~16:40
- (2) 地方講習会：平成20年11月14日(金)
9:30~15:00

3. 場所

岡山衛生会館・三木記念ホール
 〒703 8278 岡山市古京町1-1-10
 ☎086 272 3275 FAX 082 272 3256

4. プログラム

11月13日(木)支部研修会
 テーマ：『「くだもの王国おかやま」と畑地かんがい施設』
 9:30~ 受付開始
 10:30~10:50 開会あいさつ
 11:00~12:00 「農業農村整備事業の今後の展開方向とストックマネジメント」
 農村振興局整備部水資源課施設安全管理室室長 瀧戸 淑章
 12:00~13:00 [昼食]
 13:00~13:50 「国営更新事業の紹介」
 中国四国農政局土地改良技術事務所所長 安達 修

13:50~14:40 「岡山県の畑地かんがい施設と更新整備」
 岡山県備中県民局農林水産事業部農地整備課主任 谷野 吉春

14:40~14:50 [休憩]

14:50~15:40 「おかやまのくだもの振興」

岡山県農林水産部生産流通課総括参事 平松 健二

15:40~16:30 「晴れの国おかやまの農業土木遺産」

岡山大学大学院教授 馬場 俊介

16:30~16:40 閉会あいさつ

11月14日(金)支部講習会

9:00~ 受付開始

9:30~9:40 開会あいさつ

9:40~11:00 『「設計基準 頭首工の解説」について(その1)』

石川県立大学生物資源環境学部教授 青山 咸康

11:10~12:00 『「設計基準 頭首工の解説」について(その2)』

農村振興局整備部設計課課長補佐 瀬戸 太郎

12:00~13:00 [昼食]

13:00~13:50 『「計画基準の最近の動向」について』

農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐 増尾 学

14:00~14:50 『「管理基準について」』

農村振興局整備部水資源課課長補佐 福田 一宏

14:50~15:00 閉会あいさつ

講師の都合により、講演テーマ等を変更する場合があります。

5. 参加費等

支部研修会 3,000円(非会員 4,000円)

地方講習会 4,000円(非会員 5,000円)

昼食代 1,000円(1食分)

(会場周辺にも食事をする場所はありますが、弁当を手配しますのでご利用下さい。)

6. 参加申込方法

(1) 申込書

所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申し込み下さい。

(2) 申込締切日 平成 20 年 10 月 15 日 (水)

(3) 参加費の納入方法

銀行振込または、当日支払いです。どちらで納入するか申込用紙にご記入下さい。

なお、振込み後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

振込み手数料については、振込み人負担でお願いします。

【振込口座】振込先 中国銀行 県庁支店

口座番号 普通 1413897

口座名称 支部研修会地方講習会
実行委員会 横山慎二

7. 問合せ・申込み先

岡山県農林水産部耕地課水利・ほ場整備班 横山、武村
〒700 8570 岡山県岡山市内山下 2 4 6

☎086 226 7434 (直通) 086 224 2111 (代表)

FAX 086 222 9621

E-mail : kouichirou_takemura@pref.okayama.lg.jp

8. 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申し込み下さい。

【申込様式】

中国四国支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関 _____

所在地(〒 _____)

連絡者氏名 _____

TEL _____ FAX _____

所属	氏名	会員区分	【13日】 支部 研修会 3,000円 (4,000円)	【13日】 昼食代 1,000円	【14日】 支部 講習会 4,000円 (5,000円)	【14日】 昼食代 1,000円	合計 (円)	技術者 継続教 育機構 個人会 員	支払 方法
									振込 or 当日
計		会員 非会員	人 人	人	人 人	人	円		

注) 出席および必要な場合は 印、欠席および不要な場合は×印をご記入下さい。
金額の()は非会員
技術者継続教育機構の個人会員の方は右端の欄に をご記入下さい。

9. 交通アクセス案内

JR 岡山駅より 路面電車約 10 分 県庁通り電停下車
徒歩約 10 分

バス約 10 分 県庁前下車 徒歩約 5 分

岡山空港より リムジンバス約 30 分 JR 岡山駅下車
路面電車またはバス

農地保全研究部会第 29 回研究集会 (第 3 報)

「中山間地における農地保全・地域資源の活用」

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成 20 年 10 月 23 日 (木)

(2) 現地見学会 平成 20 年 10 月 24 日 (金)

2. 場所

(1) 研究集会 〒515 0014 三重県松阪市若葉町 161 2
松阪商工会議所 大ホール (松阪駅から
徒歩 10 分) ☎0598 51 7811

(2) 現地見学会 松阪市および近郊市町の農業農村整備事
業

3. プログラム

(1) 研究集会 平成 20 年 10 月 23 日 (木) 9:30~17:00
9:30~10:00 受付
10:00~10:20 開会式
10:20~11:10 特別講演 「多気町勢和地域に於ける農
地・水・環境保全向上活動を振り返って」
水土里ネット立梅用事務局長 高橋 幸照
11:10~12:00 基調講演「中山間地における農地保全・
地域資源の活用」
農村振興局農村政策部中山間地域振興課長

仲家 修一

12:00~13:00 昼食

13:00~13:40 講演 1「棚田の現状と保全」

NPO 法人棚田ネットワーク代表・早稲田大学名誉教授
中島 峰広

13:40~14:20 講演 2「耕境を抱える地域の農地利用
計画」

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
農村計画部地域計画研究室 遠藤 和子

14:20~15:00 講演 3「うきさとファンと女性」
うきさとむら ささゆり会会長 西井 玉枝

15:00~15:20 休憩

15:20~17:00 総合討論

17:00 閉会

18:30~20:00 情報交換会 (松阪市内: 場所はホーム
ページにてお知らせします)

(2) 現地見学会 平成 20 年 10 月 24 日 (金)

9:00~16:15

9:00~9:30 集合・受付 (集合場所はホームページ)

にてお知らせします)

- 10:00~10:45 県営中山間地域総合整備事業茅広江地区
 11:00~11:45 松阪市飯南町深野だんだん田
 12:00~13:00 まめや(昼食)
 13:00~14:15 立梅用水
 14:45~15:30 松阪市農業公園ベルファーム
 15:45 松阪駅(JRまたは近鉄)
 16:00 松阪港(高速船,中部国際空港)

4. 参加費用等

- (1) 研究集会 参加費 3,500円
 昼食代 1,000円(希望者)
 (2) 現地見学会 参加費 3,500円
 (バス代2,500円+昼食代1,000円)
 (3) 情報交換会 参加費 5,000円

5. 参加申込み

- (1) 申込方法
 申込みはホームページの「研究集会参加申込書」よりダウンロードした様式にて,所属機関ごとに取りまとめた上,E-mail,郵送またはFAXでお願い致します。

HP <http://www.bio.mie-u.ac.jp/society/nouchihozen/>

- (2) 申込先
 〒514 8507 津市栗真町屋町 1577
 三重大学大学院生物資源学研究所 成岡 市
 FAX 059 231 9574 E-mail: narioka@bio.mie-u.ac.jp
 (E-mailで申込みの方は,件名に「農地保全研究集会参加」と記述して下さい。)

(3) 申込期限 平成20年9月26日(金)

(4) 参加費の振込み

振込み期限 平成20年10月10日(金)

振込口座:百五銀行 津駅前支店栗真出張所
 普通 296755

口座名義:農業農村工学会 農地保全研究部会

6. 問合せ先

農地保全研究部会事務局(幹事)

〒514 8507 津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究所 酒井 俊典

TEL&FAX 059 231 9580

E-mail: sakai@bio.mie-u.ac.jp

平成20年度農村道路研究集会・現地研修会開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



農村道路研究部会では,以下のとおり第18回研究集会および現地研修会を開催しますので,ご案内いたします。

1. 期日 平成20年11月6日(木) 研究集会
 平成20年11月7日(金) 現地見学会

2. 研究集会

- 1) 会場:「広島県土地改良会館 7階会議室」
 〒730 0017 広島市中区鉄砲町4-1
http://www.hdn.or.jp/jigyousyo/kaikann_annnai.htm 参照
 2) 日時:11月6日(木) 13:00~17:00
 3) 課題:特定課題:「農道の経済効果について」
 自由課題(公募)

4) 参加費:4,000円/人

4. 現地研修会

- 1) 見学地:呉方面(現在調整中)
 2) 日時:11月7日(金) 9:00~13:00
 3) 参加費:3,000円/人(バス代)

5. 発表申込み・参加申込み

- 1) 自由課題の発表申込みは,下記様式により平成20年10月5日(金)までに事務局へ「FAX」あるいは「E-mail」でお願いします。ただし,発表申込みは執筆者のみとしますので,連名者で発表会に参加される方は別途申し込み下さい。なお,発表論文提出締切は10月10日(金)といたします。

2) 発表原稿書式

A4用紙縦(余白:上マージン25mm,下マージン27mm,左右マージン25mm)に横書きで記入して下さい。連名の場合には口頭発表者名の前に印を付けて下さい。論文ページ数は6ページを上限とします。

平成20年度農業農村工学会農村道路研究集会 発表申込書

氏名(ふりがな)			
所属			
所在地			
電話番号			
E-mail			
発表題目			
現地研修会	参加	不参加	
参加料(合計)			
必要書類	領収書	見積書	納品書
領収書等の宛先			
CPD番号			

該当するところに を付けて下さい。

発表のみ:5,000円,研修会も参加:9,000円

- 3) 参加申込みは,下記様式により平成20年10月10日(金)までに事務局へ「FAX」あるいは「E-mail」でお願いします。なお,参加取消しは10月31日(金)までとさせていただきます。

平成 20 年度農業農村工学会農村道路研究集会 参加申込書

氏名(ふりがな)			
所属			
所在地			
電話番号			
E-mail			
研究集会	参加	不参加	
現地研修会	参加	不参加	
参加料(合計)			
必要書類	領収書	見積書	納品書
領収書の宛先			
CPD 番号			

該当するところに を付けて下さい。

4) 参加費は、申込みと同時に下記の銀行口座に納金して下さい。振込み手数料は各自でご負担下さい。なお、会場、

バスの手配等の都合上、10月31日以降は半額申し受けま
すのでご了承下さい。

取扱銀行 三井住友銀行 経堂支店 店番号 597

口座番号 6610166

口座名 農道研究部会 会計 竹内康(タケウチヤスシ)

6. 問合せ・申込み先

事務局：東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科

竹内 康

〒156 8502 東京都世田谷区桜丘 1 1 1

☎03 5477 2342 FAX 03 5477 2620

E-mail : bamboo@nodai.ac.jp

7. 宿泊について

各自で、ご手配方お願いします。

平成 20 年度農業農村整備計画セミナー開催について
農村の総合的な振興と再生に向けて～農村の協働力の強化とそのための人づくり～

主催：全国農村振興技術連盟 後援：(社)農業農村工学会
技術者継続教育認定プログラム



全国農村振興技術連盟では、農村振興に携わっておられる皆様方へ幅広い情報を提供し、総合的な技術力の向上に役立てていただくため、標記セミナーを下記のとおり開催いたします。本年は、「交流と協働による農村の活性化」をテーマにした特別講演をはじめとして、農村の振興を図るための人材の育成等に携わっておられる方々からの講演をいただくことにしています。

なお、本セミナーは農業土木技術管理士の資格更新に必要な研修に代わる研修にもなっています。

記

- 開催日 平成 20 年 10 月 7 日(火) 10:00～16:30
受付は 9 時 15 分から行います。
- 場所 東京都千代田区北の丸公園 2 1
科学技術館 B 2 F
サイエンスホール ☎03 3212 8485
- 参加費 7,000 円(昼食代は含まず。参加費は当日会場
申し受けます。)

4. 参加申込方法および申込先

各地方協議会で取りまとめの上、所属する地方協議会にお申し込み下さい。

地方協議会に所属されていない個人会員の方は、全国農村振興技術連盟へ直接お申し込み下さい。

お申し込みはいつでも、所属・氏名を明記の上、FAX またはハガキをお願いします。

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

全国農村振興技術連盟

☎03 3434 5407 FAX 03 3578 7176

5. 申込締切 平成 20 年 9 月 12 日(金)

6. 計画セミナープログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります。)

開会挨拶 10:00～10:15

全国農村振興技術連盟委員長 太田信介

特別講演 10:15～11:45

「交流と協働による農村の活性化」

東洋大学社会学部教授 青木辰司

講演 11:45～13:00

「持続可能な社会と新たな時代の創造」

地域再生診療所長 井上弘司

休憩 13:00～14:00

講演 14:00～15:15

「農村の振興政策の展開方向と「人づくり」(仮題)」

農村振興局整備部長 齋藤晴美

講演 15:15～16:30

「農村の活性化と人材育成(仮題)」

NPO「TEAM・田援」代表理事 筒井義富

閉会挨拶 16:30～

全国農村振興技術連盟副委員長 松本政嗣

農業農村整備計画セミナー参加申込書

所属機関名: _____

所在地: _____

連絡先: _____ 連絡者: _____

所属機関名等	氏名	CPD 会員番号	摘要

記入欄が不足する場合は、この表に準じた様式で追加して下さい。